公　表

平成23年度 日本獣医師会獣医学術賞の受賞者及び受賞研究業績

本年度の日本獣医師会獣医学術賞の選考は，奨励賞は日獣会誌の平成21年8月号（第62巻第8号）から平成23年7月号（第64巻第7号）に掲載された原著・短報を対象に，学会賞は獣医学術学会年次大会（北海道）において発表された地区学会長賞の中から，功労賞は推薦のあった永年の功労の業績の中から，選考委員会において厳正に審査され，平成23年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会（北海道）における授与式において本会 山根会長から受賞者に本賞及び，協賛会社（日本全薬工業㈱，共立製薬㈱，日本ハム㈱）から研究奨励金20万円（目録）が授与された．

表彰された受賞者及び研究業績の一覧は次のとおり．

平成23年度 日本獣医師会獣医学術賞受賞業績

【産業動物部門】

獣医学術奨励賞：

「Two-step vaccine programの牛ウイルス性下痢ウイルス2型に対する有用性評価」

加藤　肇（根室地区農業共済組合西春別支所），他

〈選考理由〉牛ウイルス性下痢ウイルス（BVDV）感染症ワクチンの接種プログラムを検討するため，1型及び2型ウイルスを含む不活化ワクチンまたは1型生ワクチン1回免疫，不活化と生2回免疫の3群を設定し抗体の上昇を評価した．この結果，不活化と生ワクチンの2回接種は1型及び2型ウイルスに対する抗体上昇を誘導し，1型のみならず2型の感染防御も期待できた．本業績はBVDV感染症のワクチンによる防御に大きな示唆を与えるもので，今後の調査研究の進展に著しく寄与する．

獣医学術学会賞：

「サラブレッド新生仔管理におけるAPGARスコアを用いた健康状態評価の有用性の検討」

津田朋紀（ノーザンファーム・北海道），他

〈選考理由〉本研究は，人の新生児の健康状態の把握に古くから利用されているAPGARスコア方法を馬の新生子の健康状態の評価に応用したものである．実際には6年間にわたり2,000例以上の新生子のデータを用いて，その応用価値が高いことを明らかにしており，産業動物獣医学の発展に寄与するところが非常に大きいことを評価した．

獣医学術功労賞：

「産業動物獣医内科学における学術の業績とその普及実績」

内藤善久（岩手大学・名誉教授）

〈選考理由〉長年にわたって産業動物分野の獣医学術活動に従事し，特に，乳牛の低カルシウム血症の臨床的研究において著しい業績をあげ，学術専門誌に多数の論文を発表した．これらの業績は，産業動物獣医学に関する学術の振興及び普及に著しく貢献した．

【小動物部門】

獣医学術奨励賞：

「中／内耳疾患を疑う犬における聴性脳幹誘発反応の有用性の検討」

長村　徹（おさむら動物病院・大阪府），他

〈選考理由〉日常の診療の中では確定診断の難しい中／内耳疾患に対して，聴性脳幹誘発反応を実施し，画像診断では判断できない機能面での評価を試みたものであり，今後の小動物臨床面での応用が高く期待できる．本論文は，症例数は少ないながら，個々の症例に対する経過を追った十分な検討が展開されており情報の質・量ともに大きく，さらに，聴性脳幹誘発反応の臨床的意義付けが的確に論議されているため，今後の臨床応用に期待される．

獣医学術学会賞：

「犬の肝外性門脈体循環シャントの新しい分類法と最適な血管閉鎖部位の検討」

浅野和之（日本大学・獣医外科），他

〈選考理由〉犬の肝外性門脈体循環シャントは小型犬に多発し，日本が中心となって様々な病態の解明や診断治療法を開発してきた．本研究は血管造影CT検査を加えることによって，多くの門脈体循環シャントを系統的に分類し，治療方針を正確に決定できるようにしたものであり，小動物獣医学の発展に寄与することが著しく高く，この点を評価した．

獣医学術功労賞：

「小動物における再建外科に関する研究と普及」

田中茂男（前日本大学・教授）

〈選考理由〉長年にわたり小動物臨床獣医療に取り組み，特に様々な再建外科手法を開発し，その成果を学術誌に多数掲載し，最新の獣医療の発展に功績を残すとともに獣医学教育分野の充実と獣医学研究の発展に尽力された．

【公衆衛生部門】

獣医学術奨励賞：

「長崎県沿岸における *Vibrio vulnificus* の分布と環境因子」

山﨑省吾（長崎県環境保健研究センター），他

〈選考理由〉*Vibrio vulnificus* による感染症は，有明海，東京湾や瀬戸内海など限られた地域で発生し，*Vibrio vulnificus* の生息分布や環境因子と深く関係しているとされてきた．本論文は，こうした点に着目し，*Vibrio vulnificus* の生態について，長期間にわたり幅広く海水中の細菌数の動きをモニタリングし，生息分布や環境因子との関係を明らかにした．

獣医学術学会賞：

「馬肉を原因食品とする食中毒病因物質の解明とその予防法」

新井陽子（埼玉県食肉衛生検査センター），他

〈選考理由〉本研究は，馬肉の原因不明の食中毒から出発したものであり，原因菌として *Sarcocystis fayeri* を同定した．特に，馬肉中の分布を詳細に調査し，下痢の原因が *Sarcocystis* 由来の毒素であることを，ウサギ腸管結紮ループを用いて同定した．さらに，予防法についても言及しており，公衆衛生上，重要な知見をもたらした点を高く評価した．

獣医学術功労賞：

「有害真菌の食品危害と病原性因子に関する研究」

高鳥浩介（前国立医薬品食品衛生研究所・部長）

〈選考理由〉長年にわたり真菌学における学術研究への貢献と食品衛生及びズーノーシスでの獣医公衆衛生分野への貢献を行うとともに，国内外を問わず多くの若手研究者を育成し，獣医公衆衛生学に関する学術の発展・普及に大きく寄与した．

平成23年度 日本獣医師会獣医学術賞受賞者
（左から，高鳥浩介，新井陽子，山﨑省吾，田中茂男，浅野和之，長村　徹，内藤善久，津田朋紀，加藤　肇の各氏）